

令和 6 年 6 月 3 日現在

機関番号：24405

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K00131

研究課題名（和文）研究手法としてのダンスドラマトゥルギーの系譜学的研究

研究課題名（英文）The Genealogy on Dance Dramaturgy as Research Methods

研究代表者

中島 那奈子（Nakajima, Nanako）

大阪公立大学・大学院文学研究科・都市文化研究センター研究員

研究者番号：00728074

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,700,000円

研究成果の概要（和文）：ダンスに固有の身体領域の理論化に特化したダンスドラマトゥルク・ダンスドラマトゥルギー研究とはいかなるものでありうるのか、また、それはどのような系譜のもとで成立するのか？という問いのもと、その系譜を米国・カナダ・欧州での調査を踏まえ、新たにたどり直した。そして、それをダンスドラマトゥルクとして申請者が行ってきた実践をも交えて言説化することで、ダンスドラマトゥルギーの手法を理論的・歴史的・実践的観点から日本の舞踊学に導入した。アジアのドラマトゥルク言説化にも貢献し、英国ラウトリッジ社と単著出版契約を締結し、2024年には国内外のドラマトゥルクを招聘し日本初のドラマトゥルク・ミーティングも開催した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

この研究ではポストモダンダンス再考・ダンスドラマトゥルクの研究集成・ダンスドラマトゥルク実践の言説化をへて、ダンスドラマトゥルクの系譜学を踏まえた実践の言説化を行った。その成果は単著「老いのダンスドラマトゥルギー」の出版契約に結びついただけでなく、研究手法としてのパフォーマンスを理論化する国内外での発表を通じて、その手法を学術的に舞踊学に導入した。2024年には国内外のドラマトゥルクを招聘し日本初となるドラマトゥルク・ミーティングを企画開催して多くの参加者を集め、全国紙での報道など一つのムーブメントに結びつけた。研究手法としてのダンスドラマトゥルギーを社会的に導入する大きな一歩となった。

研究成果の概要（英文）：What is the scholarship of dance dramaturg and dance dramaturgy that specializes in theorizing the corporeal field specific to dance, and under what kind of genealogy should it be established? These are the questions I have asked myself, and based on my research in the United States, Canada, and Europe, I have re-examined the genealogy of dance dramaturg and dance dramaturgy. I then introduced the method of dance dramaturgy to dance studies in Japan from a theoretical, historical, and practical perspective through a discourse on my practice as a dance dramaturg. I have contributed to the development of dramaturgical thinking in Asia and have concluded a monograph publishing contract with Routledge in the U.K. In 2024, I have also organized the first dramaturgs' meeting in Japan, inviting dramaturgs from Japan and abroad.

研究分野：ダンス研究、ダンスドラマトゥルギー

キーワード：ダンス ドラマトゥルク ドラマトゥルギー 老い 芸術実践

## 様式 C-19、F-19-1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

(1) ドラマトゥルクとは、舞台芸術において演出家・振付家の片腕となり、作品制作を研究の側から支える職分である。19世紀～20世紀にかけてドイツで確立し、その後欧州の周辺諸国と北米に広まり、現在はアジアの公共劇場や主要劇団、舞台芸術フェスティバルもこの制度を採用している。ダンスにおけるドラマトゥルク・ドラマトゥルギー研究は、1990年代以降、既存の研究手法を乗り越える形で生まれたダンスの実践的研究である。現在日本において、演劇学では紹介が進められつつあるが、舞踊学ではまだ十分に紹介されていない。

(2) ダンスにおけるドラマトゥルクの誕生は、ドイツの振付家ピナ・バウシュによるライムント・ホーゲの起用に始まる。そこでは先行作品がほとんど存在しない新作をゼロから作り上げていく、新しい共同制作・認識モデルが探求されていった。申請者は、ダンスドラマトゥルギーを自らの実践経験をも交えて分析できる日本では数少ない研究者のひとりであり、ドラマトゥルクの役割は研究成果を作品制作へ生かしていく、研究と実践の橋渡しであると考えている。この橋渡しは、理論と研究との有機的な接続によって可能となる。

(3) これまで演劇のドラマトゥルクの仕事の紹介が中心であったこの分野において、ダンスドラマトゥルク・ダンスドラマトゥルギーの系譜を新たにたどり直し、それを申請者が行ってきた実践をも交えて言説化することで、日本の舞踊学に新たな学術的アプローチを導入するのみにとどまらず、作品制作の現場にダンスドラマトゥルギーの体系的知見を提供することで、ポジティブなインパクトを与えられるのではないかと考える。

### 2. 研究の目的

(1) ダンスドラマトゥルク・ダンスドラマトゥルギーの系譜形成を通じて、その手法を理論的・歴史的・実践的観点から日本の舞踊学に導入することを本研究の目的とする。

(2) ダンスに固有の身体領域の理論化に特化した研究とはいかなるものでありうるのか、また、それはどのような系譜のもとで成立するのか？という問いのもと、ダンスドラマトゥルク・ダンスドラマトゥルギーの系譜を新たにたどり直すことを行う。

### 3. 研究の方法

ダンスドラマトゥルク・ダンスドラマトゥルギーの系譜を、その基盤を形成した米国ポストモダンダンス、ドイツ・ポストドラマ演劇の書籍・資料読解と、ダンスドラマトゥルクへの活動調査に基づいて記述・分析した。

(1) ポストモダンダンスの再考 (令和三年度) 1960年代から80年代のポストモダンダンスが、米国のダンスドラマトゥルギーの基礎を形成したという前提のもとに、イヴォンヌ・レイナーなどのポストモダンダンスの関連文献と国内外の研究文献を、ダンスドラマトゥルクとダンスドラマトゥルギーの系譜という視点で読解し理論的接続を行った。なお、コロナ禍での海外渡航制限により米国での現地調査は延期した。

(2) ダンスドラマトゥルクの研究集成 (令和四年度) 初年度に延期した米国 NY 公立図書館での資料調査に加え、コロンビア大学での講演、イヴォンヌ・レイナーと研究者アンドレ・レペッキヘ

の聞き取り調査を行った。加えて、ダンスドラマトゥルクの研究集成として、ベルギー、オーストラリア、カナダでのダンスドラマトゥルクを対象に、資料読解や実践でのダンスに特化した理論的手法に焦点をあてながら、欧米のダンスドラマトゥルクの系譜をまとめた。

(3)ダンスドラマトゥルク実践の言説化（令和五年度）昨年度まで延期していた欧州出張を実施し、ドイツ、オーストリア、ベルギーを訪れ、資料調査や専門家への聞き取り調査だけでなく、ドラマトゥルギーに関する国際共同研究ワークショップに参加した。単著「老いのダンスドラマトゥルギー」の執筆準備を進めながら、カナダ・アルバータ大学で講演を行い、カナダの劇場施設バンフセンター・フォー・アーツ・アンド・クリエイティビティのダンスプログラムでファカルティ・ドラマトゥルクとしての実務を行った。国内では学会発表（研究としてのパフォーマンス「型の向こうへ」）を行い、日本初のドラマトゥルク・ミーティングを企画開催した。

#### 4. 研究成果

この研究では、ポストモダンダンス再考・ダンスドラマトゥルクの研究集成・ダンスドラマトゥルク実践の言説化をへて、ダンスドラマトゥルクの系譜学を踏まえた実践の言説化を行った。その成果は単著「老いのダンスドラマトゥルギー」の出版契約締結に結びついたと考える。NY 及び欧州出張では、資料調査に加え関係者への聞き取りを実現した。国内外での発表や講演に加え、2024 年には国内外からドラマトゥルクを招聘し日本初となるドラマトゥルク・ミーティングを企画開催して約 150 名の参加者を集め、全国紙での報道など一つのムーブメントに結びつけた。研究手法としてのダンスドラマトゥルギーを舞踊学へ学術的に導入する第一歩になったと考える。

#### 発表論文

- (1) 中島那奈子(台湾語翻訳 Tai-Jung YU, Yen-Ing CHEN) 「舞踏的檔案與舞碼：川口隆夫《關於大野一雄》」『身體網絡：當代表演的文化與生態』台北パフォーマンスアーツセンター、2022 年
- (2) 中島那奈子「ダンスのアーカイブ化とデジタルアーカイブの現状」デジタルアーカイブ学会、2023 年

これらの論文では、アーカイブとレパートリーというダンスにおける二つの知のアーカイブ化を踏まえて、近年の大野一雄の舞踏をはじめとするダンスの創造と継承の流れを論じた。これはダンスドラマトゥルクとして関わったダンスアーカイブボックスプロジェクトの主要なテーマでもあり、次の書籍の第一章へと発展させ繋げていく。

#### 海外講演・口頭発表等

- (1) 「老いと踊りを抱きしめること（英語）」ドイツ・デュッセルドルフシンポジウム 2021 年
- (2) 「インター、イントラについて（英語）」オンライン・ディスカッション、アジアドラマトゥルクネットワーク、2021 年
- (3) 「ポストモダンダンスの伝統における老いのドラマトゥルギー（英語）」オンラインレクチャー、タンツクヴァルティアー・ウィーン（オーストリア）2022 年
- (5) 「ダンスドラマトゥルギーロングテーブル（英語）」中島那奈子、レイチェル・フェンシヤム、リム・ハウニエン、プリヤ・スリニバサン、オーストラリア、キール振付フェスティバル、2022 年
- (6) 中島那奈子、ガブリエレ・ブランツシュテッター共同レクチャー「アーカイビングダンスインボックス（英語）」米国コロンビア大学、独文学科、2022 年

- (7)「老いを巡るダンスドラマトゥルギーの紹介 (英語)」国際学術ワークショップ「比較ドラマトゥルギー 方法と挑戦」ベルギー自由大学、2023年
- (8)「東アジアと欧米における老いのダンスドラマトゥルギー (英語)」カナダ、アルバータ大学講演会、2023年

海外におけるダンスドラマトゥルク・ダンスドラマトゥルギーに関する言説にも積極的に貢献した。2021年はドイツ・デュッセルドルフでの老いに関するシンポジウムで、現地の高齢者施設でのダンスワークショップをふまえた講演を行なった。また、アジアドラマトゥルクネットワークによるオンラインシンポジウムにも登壇し、欧州発祥のドラマトゥルク的思考を、アジア間およびアジア内で考える視点を提供した。2022年はウィーンの劇場によるオンラインプログラムで、京都芸術劇場を用いたポストモダンダンスの老いのドラマトゥルギーについてレクチャーを行った。加えて、オーストラリア・メルボルンの劇場で、アジアのドラマトゥルクおよびダンス研究者を集めたセッションを企画開催した。また米国コロンビア大学においてダンスアーカイブボックスについての共同レクチャーをガブリエレ・ブランツシュテッター教授と行なった。2023年のベルギー自由大学の発表では、アイデンティティポリティクスを変動させること、文化的に身体化された歴史をドラマトゥルギーとすること、傾聴することの三つの項目を挙げて、次の書籍について説明した。加えて、このテーマに関するドラマトゥルギーの事例として「イヴォンヌ・レイナー・パフォーマティヴ・エキシビジョン」を取り上げ、ここでの高齢の能楽師による米国ポストモダンダンスへのドラマトゥルギー的介入について説明した。加えて、2023年のカナダアルバータ大学での講演では、東アジアと欧米とで異なる年齢への偏見を、有意義なダンスドラマトゥルギー実践へと展開させる必要を語った。ダンスドラマトゥルギーとは私たちが世界を捉えるパターンに対して、コンスタントに交渉し続けることである。ドラマトゥルクとしての事例を紹介しながら、伝統的なダンスの知を長老が伝える、という老いと踊りの側面だけでなく、若さを追い求める欧米文化での、失われた過去を取り戻す高齢のパフォーマーに光を当てたドラマトゥルギーについても紹介した。この講演内容は、次の書籍の第1章から第2章へと発展させる。

### 国内発表と活動等

- (1)DAAD 友の会オンライン講演会「先住民と伝統 カナダ・バンフセンターでのダンスドラマトゥルギー」2023年

近年、北米やオーストラリアといった国家において、これまで抑圧されてきた先住民の文化を評価し、欧州の入植者文化と和解、共存させていく流れが見られる。公的な催しの冒頭では、その土地がファーストネーションと呼ばれるどの先住民に属していたかに言及し、敬意を示すことが義務付けられた。先住民とは、国家や地域に先住していたものの、後続の入植者の増加によって少数派となり、政治的に支配されている特定の集団意識を持つ人々を意味する。2022年よりカナダの劇場施設バンフセンターフォーアーツアンドクリエイティビティにドラマトゥルクとして携わり、カナダ先住民由来の感性和欧州由来のコンテンポラリーダンスを共存させる作品作りを行うことになった。この講演ではその経験をもとに、日本の伝統のあり方と異なるカナダ先住民の伝統、そして先住民寄宿学校問題を巡る近年の衝撃を踏まえ、西洋近代やネオリベリズムを乗り越えたこれからの「伝統」をダンスドラマトゥルギーの視点から考えた。

(2) 中島那奈子「不／自由なダンス——老いを巡るダンスドラマトゥルギー」パネル『ままならない身体』をめぐる思考と実践」(小澤京子, 宮川麻理子, 小川千尋, 外山紀久子) 表象文化論学会全国大会、2023年

この発表では、ダンスドラマトゥルク・ダンスドラマトゥルギー研究でかつ「プラクティス・アズ・リサーチ」(＝研究としての実践)の一例として、2023年に京都府庁旧本館旧議場で実施したパフォーマンスの理論化を行なった。ここでは、喜多流能楽師とダンサーによるパフォーマンスを合唱隊とともに上演し、空間の不自由さゆえに老いの身体が自由になること、老若2名のダンサーがいずれも主演として互いに呼吸でつながり、その往還運動を観客は目の当たりになること、ダンサー間の身体の対話が、合唱隊の歌う身体と反響し合うこと、観客もまた単なる目撃者に留まらず、「動かないことができる」者としてその場に参画することを指摘した。動く身体を扱う舞踊で、〈老い〉は踊り手にとって〈ままならなさ、不自由さ〉を強いる。ただ、あらゆる人に訪れるという意味では平等な〈老い〉が、ばらばらな世代、地域、国、時代を繋ぐ一つのダンスドラマトゥルギーになる。加えて、〈老い〉が一人の身体のなかに個人を超える複数の年代を思い描く想像力ともなり、個人の年齢を超えて、歴史空間に存在する遙かなる時間を讀めた生のエネルギー循環ともなる。クィア・スタディーズでの「失敗」の再定義を踏まえ、高齢の能楽師が仕舞の際に手をつけて立ち上がるシーンを、型の失敗とみなすかは再考の余地があることも言及した。

(3) 国際シンポジウム、セミナー、ワークショップ企画「ドラマトゥルク・ミーティング ドラマトゥルクがいると何が生まれるか？実践的思考と創造プロセスの生成」2024年

第一線で活躍する国内外のドラマトゥルクによる日本で初めてのドラマトゥルク・ミーティングを三日間にわたって京都で開催した。ドラマトゥルクの創造的な役割を紐解くプログラムを通して、従来の作品づくりを乗り越える、対話型の新しい作り方に会う貴重な機会を提供した。シンポジウムでは「ドラマトゥルクがいると何が生まれるか？」をめぐって、それぞれのドラマトゥルクが国内外の事例を交えて地域や観点の違い、類似性を示した。ドラマトゥルクがどのような集団の在り方を良しとするか、なぜ今、日本の創造の現場でドラマトゥルクについて考える必要があるのか、フロアも交えて討議された。二日目は、その実践的思考と創造プロセスの生成についてドラマトゥルクがより具体的に話す形式を、演出家、ダンサーや能楽師が加わるコール&レスポンスとして見せることで、ドラマトゥルクが実践する「傾聴」や「対話」を知覚できるように組み立てた。中島那奈子の発表「静かなる立会人 ドラマトゥルクの外からの眼差し」＋高林白牛ロニ(能楽師シテ方喜多流)では、「外からの眼差し Outside Eyes」というダンスにおけるドラマトゥルクの役割を歴史的に概観してから、高林の行う「離見の見」のデモンストレーションと重ね合わせ、能の理論的実践をダンスドラマトゥルクの系譜に繋げた。最終日に行ったワークショップでは、ドラマトゥルク二人が共同で率いる三つのグループに参加者がわかれて共同作業をおこない、当事者と社会包摂の視点や、振付の著作権といったトピックが議論され、公開時にはその内容を一般参加者も含めて共有する時間となった。会場には全国から参加者が集合し、ドラマトゥルク・ドラマトゥルギーに関するただならぬ関心を集めただけでなく、全国紙による報道などその反響も大きかった。プレイベントでは、カナダのダンスドラマトゥルクであるピル・ハンセンの書籍翻訳も行なった。このドラマトゥルク・ミーティングを通して、日本の舞台芸術の作品制作現場に、研究手法としてのダンスドラマトゥルギーの体系的知見を提供できたと考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 2件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 中島那奈子	4. 巻 7(1)
2. 論文標題 ダンスのアーカイブ化とデジタルアーカイブの現状	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 デジタルアーカイブ学会誌 7(1)	6. 最初と最後の頁 18 - 23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24506/jsda.7.1_18	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Nanako Nakajima/中島那奈子	4. 巻 0
2. 論文標題 The Archive and Repertoire of Butoh: Takao Kawaguchi's About Kazuo Ohno/舞踏的档案與舞碼：川口隆夫《關於大野一雄》	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Networked Bodies: The Culture and Ecosystem of Contemporary Performance/身體網絡：當代表演的文化與生態	6. 最初と最後の頁 36-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計14件（うち招待講演 12件/うち国際学会 11件）

1. 発表者名 Nanako Nakajima, Rachael Fensham, LIM How Ngean and Priya Srinivasan
2. 発表標題 Is this working? A dance dramaturgy long table
3. 学会等名 The Keir Choreographic Award Public Program（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Nanako Nakajima, Gabriele Brandstetter
2. 発表標題 Dance Archive Box
3. 学会等名 Department of Germanic Languages, Deustches Haus, Columbia University（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中島那奈子
2. 発表標題 About Inter- and Intra
3. 学会等名 アジアドラマトゥルクネットワーク・ディスカッション（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中島那奈子
2. 発表標題 Embracing the aging body in dance
3. 学会等名 Time Shifts Age(ing) and Society（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中島那奈子
2. 発表標題 The Dramaturgy of Aging in Postmodern Dance Tradition
3. 学会等名 Tanzquartier Wien（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小澤京子，宮川麻理子，中島那奈子，小川千尋，外山紀久子
2. 発表標題 パネル「『ままならな い身体』をめぐる思考と実践」「不ノ自由なダンス 老いを巡るダンスドラマトゥルギー」
3. 学会等名 表象文化論学会 第17回大会，東京大学
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中島那奈子
2. 発表標題 先住民と伝統 -カナダ・バンフセンターでのダンスドラマトゥルギー
3. 学会等名 DAAD友の会オンライン講演会(招待講演)(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Nanako Nakajima
2. 発表標題 Introducing Dance Dramaturgies of Aging: A Journey of Negotiating Identity Across Generations, Dance Cultures, and Embodied Histories in between Continents
3. 学会等名 ULB Comparative Dramaturgy WS in Brussels(国際学会)(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Nanako Nakajima
2. 発表標題 Dance Dramaturgies of Aging in East Asian and Euro-American Contexts
3. 学会等名 The University of Alberta, Canada(招待講演)(国際学会)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 Nanako Nakajima, Erika Fischer-Lichte, Christel Weiler, Torsten Jost, Paul Carter, Andrej Mircev, Peter Eckersall, Hana Worthen, Catherine Diamond, Michael Roes, Amos Elkana, Claudius Luenstedt, Peter M. Boenisch, S.E. Wilmer, Kaite O'Reilly, Barges Haschempour, Peter Lichtenfels, Kamaluddin Nilu, David Moss	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 302
3. 書名 Dramaturgies of Interweaving Engaging Audiences in an Entangled World	

〔産業財産権〕

〔その他〕

What We Talk About When We Talk About Dancing  
<http://www.nanakonakajima.com/?p=2178>  
 Dance Dramaturgy  
<http://www.dancedramaturgy.org>  
 「ピチェ・クランチェンと三人のドラマトゥルク」動画コレクション、ダンスドラマトゥルギーウェブサイト  
<https://www.dancedramaturgy.org/#movie-collection>  
 「ピチェ・クランチェンと三人のドラマトゥルク」日本語概要  
<https://www.dancedramaturgy.org/articles/J6-1.html>  
 「ピチェ・クランチェンと三人のドラマトゥルク」企画概要  
[http://www.nanakonakajima.com/?page\\_id=1838&fbclid=IwAR1NziLHkv12MMrr77sR\\_pvCeVOBnRt45aCghxQoW5jEu20ZaJxUWX-RaBI](http://www.nanakonakajima.com/?page_id=1838&fbclid=IwAR1NziLHkv12MMrr77sR_pvCeVOBnRt45aCghxQoW5jEu20ZaJxUWX-RaBI)

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 ドラマトゥルク・ミーティング	開催年 2024年～2024年
--------------------------	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
ベルギー	Universite Libre de Bruxelles		
日本	早稲田大学		